

データ工学論文特集の発行にあたって



データ工学論文特集編集委員会

委員長 石川 佳治

本特集は、2004年度にスタートしたデータ工学に関する特集号の7回目の発行となる。データ工学は、データベースを中核とし、これにデータの管理・分析・活用にかかわる周辺の領域を合わせた研究分野であると位置づけられ、本会においてはデータ工学研究専門委員会がその領域をカバーしている。情報科学の諸分野のみならず工学更には社会活動においてまで、何らかの「データ」を扱わない分野はないといつてよいこともあり、データ工学には多くの研究領域がかかわっている。具体的には、情報検索、パターン認識、自然言語処理、ネットワーク、モバイル・ユビキタスコンピューティングなどが挙げられ、近年ではウェブに関する研究も大きな比重を占めている。データ工学はこれらの多様な周辺領域を取り込む柔軟性をもち、それらの融合により新たな研究課題や価値ある研究成果を生み出す可能性を有している。膨大なデータが日々生み出されている今日においては、データ工学への期待とそれが果たすべき役割はますます増大しているといえる。

データ工学研究専門委員会では、データ工学に関する様々な研究テーマをトピックとして、データ工学ワークショップ (DEWS) を過去19回にわたり開催してきた。20回目にあたる2009年は、第20回を契機に名称を「データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム」(DEIMフォーラム) と一新し、第1回DEIMフォーラム (DEIMフォーラム2009) を、2009年3月8日から10日まで、静岡県掛川市のヤマハリゾートつま恋にて、日本データベース学会及び情報処理学会データベースシステム研究会と共同で開催した。参加者数は469名であり、DEWSを通じて過去最高の数となった。

この参加者数は、国内の研究会において最大規模であり、この人数が2泊3日で1箇所に宿泊して文字どおり朝から晩まで研究発表・研究討論を行うという、非常に密度の高いイベントとなった。

DEWSからDEIMフォーラムへの名称の変更は、近年のデータ工学の研究領域の更なる拡大を反映したことによるものである。これまでのDEWSにおいては、ウェブに関する研究をはじめとして、周辺領域の出現に伴いそれらを貪欲に吸収してきたが、それらの新しい領域の中には必ずしも「工学」という名称にそぐわないものもあった。そのため、新たに「情報マネジメント (information management)」というキーワードを含めた名称へと変更を行った。この「情報マネジメント」は、まだ学界において一般に通用する用語として定着しているわけではないが、今日の情報社会における、多様かつ大規模な情報 (データ) を扱う様々な取組みを包含する概念を意図したものであり、各方面との議論の末に決定した次第である。

DEIMフォーラム2009での発表は、過去のDEWSを踏襲し、15分の口頭発表である一般論文発表と、ポスター形式で発表者と参加者が直接議論可能なインタラクティブ発表から構成した。一般論文のみの発表が195編、インタラクティブのみの発表が20編、一般論文及びインタラクティブ両方での発表が60編であった。DEIMフォーラム2009では、DEWS2008と同様、査読は行わず、3名の専門家が各セッションに割り当てられコメントするというコメントータ制度により、論文の質の向上のための著者へのフィードバックを図った。今回の新たな企画として、興味の近い研究者・学生が一堂に会して発表や議論を行うBoF (Birds of

a Feather) セッションを企画・実施した。興味深い5件のBoFセッションが初日夜に開催され、活発な議論がなされた。

DEIMフォーラム2009の終了後に、コメンテータによる推薦を参考に、口頭発表論文の中からプログラム委員会で審査を行い、最優秀論文賞を2件、優秀論文賞を2件選定した。これらの論文に対しては、本会論文誌の研究会推薦論文の手続きをとっている。このほかにも、インタラクティブ発表を対象として、最優秀インタラクティブ賞2件と優秀インタラクティブ賞6件を選定した。

このようなDEIMフォーラム2009での活発な議論と多数の優れた論文発表を受け、情報・システムソサイエティ和文論文誌(D)において「データ工学論文特集」を企画した。DEIMフォーラム2009での発表と質疑をふまえ、更に発展させた論文を募集するとともに、広くデータ工学分野の論文の募集を行った結果、14編の投稿があった。厳正な査読と審査を行い、最終的には9編の論文を採録した。採録した論文には、DEIMフォーラム2009の論文賞を受賞した論文を発展させた研究会推薦論文1編が含まれており、また、情報検索における確率的言語モデルに関するサーベイ論文1編も含まれている。どの論文も質の高い論文であり、情報検索・Web情報システム、情報抽出、空間データベース、ストレージ・並列分散データベースなどのトピックからなる。このようなトピックの分布自体にも

DEIMフォーラムが対象とする領域の多様性が見て取れる。

本特集を編集するにあたり、短期間にもかかわらず多くの時間を割いて献身的に作業をして頂いた編集委員と査読委員の方々に御礼を申し上げる。特に幹事を担当して頂いた京都工業繊維大学 宝珍輝尚先生と電気通信大学 大森匡先生には、本特集の編集全般にわたって多大な御尽力を頂いた。また、学会出版事務局の高木久恵様にも多くの御支援を頂いた。この場をお借りして、皆様に心より感謝を申し上げます。

本データ工学論文特集、データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIMフォーラム)、第一種研究会、更にデータベース関連学会・研究会との連携などを通じたデータ工学研究専門委員会の活動が、データ工学のみならず情報マネジメントの分野においても、質・量ともにますます発展することを切に願う次第である。

石川 佳治 (正員) 1989筑波大・第三学群・情報学類卒。1994同大大学院博士課程工学研究科単位取得退学。同年奈良先端科学技術大学院大学助手。1999筑波大学電子・情報工学系講師。2004同助教授。2006名古屋大学情報連携基盤センター (2009より情報基盤センター) 教授。博士 (工学)。データベース、データ工学、情報検索等に興味をもつ。データ工学研究専門委員会委員長。日本データベース学会理事。情報処理学会、人工知能学会、IEEE、ACM各会員。

データ工学論文特集編集委員会

委員 幹事 委員	長	石川 佳治	宝珍輝尚・大森 匡
	事	天笠俊之・有次 正義・池田哲夫・市川哲彦	
	員	鬼塚 真・小口 正人・片山紀生・川越恭二	
		國島 丈生・是津 耕司・波多野賢治・原 隆浩	
		宮崎 純・森本 康彦	